

ほ場整備事業と地域交流による農村地域の活性化

都市的地域

【地区概要】平成19年度開始

・取組面積 59.84ha

(田 59.84ha、畑 0ha)

・資源量 開水路 8.8km、パイプライン 13.2km、農道 12.6km、ポンプ場 3基

・主な構成員

農業者280名、非農業者7団体
(土地改良区、JA、自治会、PTA他)

農地維持支払
資源向上支払(共同)

17.伊勢原市ふるさと大田を守り楽しむ会 (神奈川県伊勢原市)

- 本地区は、伊勢原市東部に位置する水田地帯であり、多くの農道、水路が存在し、平成10年度から平成24年度にかけて、県営ほ場整備事業を実施した地区である。
- 従来、本地区の農道や水路などの農業用施設の維持保全活動は、土地改良区や地元農家が中心となって行われているが、後継者の問題から今後の維持管理活動に対する不安が増大していた。
- ほ場整備を契機に農地・農業用施設の維持管理のため、地元農家、土地改良区、JA、自治会、教育関係者が集まり活動組織を設立し、農地・水・環境保全向上対策に取り組むこととした。
- 緑肥効果のあるレンゲ等の景観植物の植栽を行うことで、地域住民との交流活動を展開し、農業の活性化を図るとともに、農道や水路などの農業用施設の保全活動を広く地域の共同活動に発展させていく。

地域の現状



パイプラインの点検補修



農道の維持補修

○従来は、ほ場整備を契機に設立された土地改良区を中心に農地や農業用施設の維持管理を行ってきた。

○交付金を活用し、農道の砂利敷きや水路法面の草刈り、パイプラインや揚水機場の点検補修等に取り組んでいる。

取組内容



(4月開催、約1,000人來訪)

○景観形成活動としてレンゲ等の植栽を行い、地域住民との交流活動へ展開。



(8月開催、約50人來訪)
(調査及び水棲生物の説明)

○小学校や地域住民と連携し、生き物調査を通して農村環境の学習を実施。

効果、課題、今後の展開

○ほ場整備が進み、更に、多面的機能支払に取り組むことにより、維持管理が充実し、担い手農家が営農に集中できるようになった。

○また、農作業の受委託を目的とした営農組合が設立され、担い手への農地集積に寄与。

○今後も、地域の担い手への農地の集積を図るとともに、地域資源の適切な保全の方向性について、話し合いを継続的に行う。



農地集積、施設の維持管理の話し合い